

2022 年度 青森大学高校生科学研究コンテスト
SDGs 賞の授与にあたって

今年で第 10 回目を迎えた青森大学高校生科学研究コンテスト、SDGs 研究センター賞にとって 3 年目を迎えました。この賞は SDGs（国連持続可能な開発目標）の達成に向けた人づくりの重要性と社会的な関心を踏まえて、青森大学附属総合研究所 SDGs 研究センターが設けたものです。今回も新型コロナウイルスの感染拡大という制約条件の中ではありましたが、会場で各発表に込められた情熱や創造性、それらを支えるチームワークを直接見聞きし、それが私たちにとっても大きな刺激、学びの糧となりました。

SDGs 賞の審査では、各エントリー作品における SDGs との関連づけの可視化や研究テーマの専門性の高さという観点より、それぞれの研究がどのように地域の自然環境を捉えて、個々の研究を青森などの地方の人口減少の抑制や地域活性化の課題に関連づけているかという、社会との関係性ならびに創造性に着眼して、各作品を評価してきました。

その結果、次の 2 チームに SDGs 研究センター賞を贈ることに決定いたしました。

**八戸工業高等学校 材料技術科チームマテリアル「基礎研究から製造工程まで！完成レア
メタルフリー サーミスタ」**

メンバー：高宮惟さん、沼山俊介さん、澤口綾乃さん、小泉遥汰さん、十文字翔人さん

弘前中央高等学校 自然科学部「嶽きみ由来の炭の作製と機能評価」

メンバー：馬祐毅さん、赤平瑞季さん、中田權翔さん

皆さん、誠におめでとうございます。

前者は、材料調達が比較的容易な鉄とチタン利用によるサーミスタを完成させた達成度と汎用性に加えて、その研究を複数年にわたり学内外の様々な支援を受けながら継続発展させたという社会性と粘り強さは秀でていました。そして、外部関係者への支援を募る中で着想し、実験プロセスに取り入れたふるいがけ（整粒）が成功のカギとなった点も強く印象に残り、チームワークの重要性を痛感しました。

後者決定の決め手は、身近なものへの洞察力の高さでした。身近なトウモロコシへの注目、されど「嶽きみ」は青森県産のブランドトウモロコシです。その着眼点に、高い評価をつけ

させて頂きました。いつの日か「嶽きみ由来の炭の作製」が、青森大学との共同研究で具現化できることを切に願っております。

受賞された6名の皆様には賞品として、陸奥湾イルカウォッチングツアーへの無料参加を贈呈いたします。このツアーは、近年青森大学社会学部清川繁人先生が陸奥湾沿岸地域の方々とともに精力的に取り組んでいるもので、皆さんの今後の勉強だけでなく、住んでいる地域、自然の捉え方にも大きな刺激になると信じて、今回の賞品とさせていただきました。

私たちSDGs研究センターでは、教育や研究活動とはそれらを取り巻く自然と社会との相互依存の関係にあるという、文脈依存性を十分考慮しながら、質の高い体験を様々な手法を通して提供する姿勢が不可欠だと捉えて日々教育研究活動に励んでおります。これはSDGsというキーワードを運用する際も十分配慮すべきことだと考えています。今回、このような考え方に基づいた評価であったことについて、受賞者ならびに指導あつた教職員の皆さまにご理解いただけると嬉しい限りです。

最後になりましたが、今回応募された生徒の皆さま、指導にあつた教職員の皆さま、そしてそれらを支えた地域社会の皆さまやご家族の皆さまにあらためて感謝を申し上げますとともに、益々のご活躍ご清祥をささやかながら祈っております。

2023年3月吉日

青森大学附属総合研究所SDGs研究センター
センター長 藤 公晴